

# 英語科 学習指導案

平成29年 月 日 (土) 学習指導Ⅲ

年 組 指導者

## I 単元 Wonderful Japanese Sports Players

～やっぱりすごいよ日本のスポーツ選手～

## II 考察

### 1 教材観

#### (1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

##### ③学びに向かう力・人間性等

自ら進んで英語で特徴や得意なことを伝えたり聞いたりしようとする態度

##### ①知識・技能

特徴や得意なことを伝えたり聞いたりする際に用いる英語の音声，英語表現，文構造の知識・技能

##### ②思考力・判断力・表現力等

英語表現を選んだり組み合わせたりし，相手に伝わるように，英語で特徴や得意なことを表現する力

#### (2) 言語事項 ※指導と評価の計画参照

#### (3) 単元の価値

本単元は，"He can ～ fast."等の英語表現を用いて，世界的に有名な日本のスポーツ選手（以下，スポーツ選手とする）の特徴や得意なことについて，友達やALTにプレゼンテーションをし，スポーツ選手名鑑を作る学習である。その価値は以下のとおりである。

本単元で扱う"can"は既習の英語表現であり，子どもたちは用いる英語表現に対する見通しをもつことができる。また，主語が"I"から"He"や"She"に変わっても"can"の後に動詞の原形が続くため，動詞を変化させずに他者のできることについて伝えることができる。さらに，"fast"や"beautifully"，"high"等の副詞を付け加えることで，できることに加えてそのスポーツ選手の特徴や得意なことをより詳しく伝えることができるようになる。

プレゼンテーションとは，相手に対して魅力を強く伝え，内容を理解してもらう活動である。そのため，より相手を意識し，ジェスチャーをしたり，英語の発音や抑揚，声の大きさや速さに気を付けたりして伝え方を工夫することができる。

スポーツ選手を扱うことは，毎日のようにニュースや新聞でたくさんのスポーツ選手が取り上げられているため，多くの子どもたちがプレゼンテーションをしたい人を選び，その選手に対する考えをもつことができる。また，スポーツ選手名鑑を作る活動は，友達のプレゼンテーションを聞くことで集めることができるスポーツ選手のカードをファイルする活動である。この活動を行うことは，スポーツ選手のカードをたくさん集めるために，他の友達のスポーツ選手の魅力を聞くという目的意識をもつことにもつながる。

子どもたちが，様々な国や競技で活躍している日本人の存在を知ることは，日本人が世界で活躍していることやそのスポーツについて知ることができる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「Let's check 平昌オリンピック!」において、「I want to watch baseball games on TV.」等の英語表現を用いて、オリンピックで観たい競技や注目の選手についてプレゼンテーションをする学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「前橋よいとこプレゼンテーション」において、「This is ～.」や「You can ～.」等の英語表現を用いて、ALTの要望に合った前橋のおすすめの場所や食べ物についてプレゼンテーションをする学習をしてきた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① おすすめの場所や食べ物の特徴を伝える「interesting」や「delicious」等の英語の音声、英語表現を理解してきている。このような子どもたちが、「fast」や「beautifully」、「high」等の副詞の英語の音声、英語表現を理解することができるように、フラッシュカードを用いて繰り返し英語の音声を聞いたり発音したりする活動を設定する。
- ② 英語の音声や抑揚、聞き取りやすい声の大きさや速さで、「This is ～.」や「You can ～.」等の英語表現を用いて、前橋のおすすめの場所や食べ物についてプレゼンテーションをすることができるようになってきている。このような子どもたちが、「He can play baseball very well.」や「She can skate and spin.」等の英語表現を用いて、スポーツ選手に合った特徴や得意なことについてプレゼンテーションをすることができるように、自らの表現を振り返る活動を設定する。
- ③ 自ら進んで英語で前橋のおすすめの場所や食べ物についてALTにプレゼンテーションをしようとするようになってきている。このような子どもたちが、自ら進んでスポーツ選手について友達やALTにプレゼンテーションをしようとするようになるように、毎時間、自らの表現の成果と課題をTryシートに記述する時間を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい スポーツ選手の得意なことを伝える自らの表現を確認し合い、繰り返し相手を替えて伝えるを通して、「can」や副詞を用いた英語表現を選んだり組み合わせたりし、スポーツ選手の魅力を伝えることができる。
- 2 準備 フラッシュカード 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・浅田真央さんはスケートができるというのを伝えられるようになったけれど、浅田真央さんのすごさはまだまだたくさんあるよ。 ・プレゼンテーションでは、声の大きさや速さ、ジェスチャーも大切だった	○前時までに学習した英語表現やスポーツ選手について想起することができるように、スポーツ選手の名前や出身、できることを英語表現を用いて確認する。 ○プレゼンテーションをする際に大切なことを意識できるように、観点「声の大きさや速さ」「英語の抑揚」「アイコンタクト」「ジェスチャー」を提示す

な。

- ・今日は、浅田真央さんの得意なことを詳しく伝えられるようになってプレゼンテーションをしたいな。

2 得意なことを伝える英語表現を取り込む。

- ・「美しく」は、"beautifully"だね。

3 得意なことについてプレゼンテーションをする。

- ・"She can do a triple Axel."で「トリプルアクセルができる」って言うのだな。「美しくスピンができる」は"She can spin beautifully."でいいのだね。

- ・スピンは美しいだけではなく、「素速さも入れるといいよ」って言われたよ。"She can spin beautifully and quickly."にしてみよう。

- ・ジェスチャーと声の大きさがまだまだのようだから、意識してみよう。

- ・"OK!"と言ってもらえたよ。さっきよりも声が大きく言えたり、友達にも伝わったみたいで嬉しいな。

- ・写真を指さしながらのジェスチャーならできそうだからやってみよう。

- ・"Good."と言ってもらえたよ。始めの時よりも、上手に浅田真央さんのすごさが伝えられたよ。

4 本時のまとめをする。

- ・"beautifully"や"quickly"を使うと得意なことを詳しく伝えられるのだな。

- ・次は、もっと浅田真央さんのすごさが友達にも分かってもらえるように「すごいでしょ？」と聞いてみよう。

る。

- スポーツ選手に合った得意なことについてプレゼンテーションをするという本時の見通しをもてるように、スポーツ選手の得意なことを問いかける。

- 得意なことを伝える英語表現を知ることができるように、フラッシュカードを用いて英語表現を提示し、ALTの後に続いて発音するよう促す。

- スポーツ選手に合った得意なことを伝える自らの表現の不十分さを自覚することができるように、グループ内で得意なことを表現し合うよう伝える。

- 得意なことを詳しく伝えられるように、英語表現を付け加えたり伝え方を工夫したりしていたグループを紹介する。

- スポーツ選手についてのプレゼンテーションを改善できるように、プレゼンテーションをする際に大切なことを基に、学習プリントに友達からの評価を記述してもらうよう伝える。

- 得意なことを伝える自らの表現の改善点を明確にできるように、子ども同士のモデルを提示し、表現のよさを問いかける。

- 得意なことを伝える自らの表現に自信をもてるように、プレゼンテーションをする際に大切なことを意識して伝えている子どもを賞賛する。

#### 評価項目

スポーツ選手の得意なことについて、"can"や副詞を組み合わせて、スポーツ選手の魅力を伝えている。  
<行動②>

- スポーツ選手についてプレゼンテーションをした際の振り返りができるように、友達からの評価を基にTryシートに自らの表現の成果と課題を記述するよう伝える。

- 次時の活動への見通しがもてるように、次時の活動内容を問いかける。